

授業科目	看護学概論 I		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)	看護師 (臨床実務経験有)					
科目目標	1. 看護の対象である人間の特徴について理解する。 2. 健康の概念および健康と疾病に影響する因子、健康障害をもつ対象の心理的特徴について理解する。 3. 看護の概念および看護の本質について理解する。 4. 看護の機能と役割を理解する。 5. 人々の健康に関与する関連職種の役割を知り、看護における調整機能を理解する。 6. 看護の歴史的変遷を知り、看護を取り巻く社会の変化とこれからの看護の展望について考える。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
	1	2	看護学の全体像と学びの特色	講義	看護師	
	2	2	看護とは何か	講義		
	3	2	看護の対象	講義		
	4	2	健康とは 病気とは	講義		
	5	2	看護の機能と役割	講義		
	6	2	ライフサイクルと健康	講義		
	7	6	看護活動の実際	病院見学		
	8	2	看護実践のための理論とその適応①	講義		
	9	2	看護実践のための理論とその適応②	講義		
	10	2	保健医療福祉システムと看護の役割	講義		
	11	2	看護の提供者	講義		
	12	2	看護における法的側面	講義		
	13	2	まとめ 終講試験	講義 試験		
評価方法	筆記試験 80 点 レポート課題 10 点 平常点 (欠席遅刻回数、授業態度) 10 点					
評価基準	60 点以上で合格					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔1〕看護学概論 医学書院					

授業科目	看護学概論Ⅱ		単位数	1	時間数	15
担当講師 (実務経験)	専任教員（臨床実務経験有）					
科目目標	1. 医療を取り巻く環境の変化と保健医療福祉政策の動向について理解できる。 2. 看護に対する社会の要望と期待について理解できる。 3. 看護教育制度の変遷と課題について理解できる。 4. 看護専門職集団の目的・役割について理解できる。 5. 看護における倫理について理解できる。 6. 事例検討をとおして看護倫理について考えを深められる。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
	1	2	現代社会の医療を取り巻く環境の変化	講義	専任教員	
	2	2	現代社会における看護のあり方	講義		
	3	2	保健医療福祉政策の動向	講義		
	4	2	看護教育制度	講義		
	5	2	専門職としての看護組織の目的・役割	講義		
	6	2	看護における倫理①	講義		
	7	2	看護における倫理②	演習		
	8	1	終講試験	試験		
評価方法	筆記試験 100 点					
評価基準	60 点以上で合格					
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学〔1〕看護学概論 医学書院 看護学テキスト 統合と実践 看護倫理 学研メディカル秀潤社 日本看護協会監修：看護者の基本的責務 日本看護協会出版会					

授業科目	問題解決技法		単位数	1	時間数	30		
担当講師 (実務経験)	専任教員（臨床実務経験有）							
科目目標	1. 看護実践における問題解決思考を学ぶ。							
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師			
	1	2	ガイダンス 問題解決過程とは	講義	専任教員			
	2	2	看護過程 看護過程とは 看護過程の構成要素 看護過程と問題解決法 看護過程とクリティカルシンキング 看護過程とリフレクション	講義				
	3	2	看護の枠組み ゴードンの機能的健康パターン NANDA-I オレムアンダーウッド 看護の枠組みと看護理論	講義				
	4	2	看護過程展開 事例展開（アセスメント） 【患者を知る】 疾患の理解（病気を抱えたその人） 生活者（病気によってどのような変化が起きているか） 生活者（病気によって何が困るのか）	講義				
	5	2	事例展開（アセスメント） ゴードンの枠組みを使ったアセスメント	GW				
	6	2	事例展開（看護診断）	講義・GW				
	7・8	4	事例展開（全体像）	講義・GW				
	9・10	4	学習成果発表会（全体像の発表）	GW 発表				
	11	2	事例展開（看護計画）	講義・GW				
	12	2	事例展開（実施・評価）	講義・GW				
	13	2						
	14	2						
	15	1	演習 演習解説	講義				
	16	1	終講試験	試験				
評価方法	筆記試験 50 点、課題 40 点、平常点 10 点（出席点の構成要素：遅刻、欠課回数、講義態度）							
評価基準	60 点以上で合格							
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 医学書院 江川隆子：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ノーヴェルヒロカワ マージョリーゴードン：ゴードン博士の看護診断アセスメント指針よくわかる機能的健康 パターン 照林社							

授業科目	フィジカルアセスメント		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)	専任教員（臨床実務経験有）					
科目目標	1. ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの意義が理解できる 2. 健康歴聴取の目的と実際について理解できる 3. フィジカルイグザミネーション(視診、触診、聴診、打診)の方法が理解できる 4. バイタルサイン測定（体温・血圧・脈拍・呼吸）に必要な知識・技術が習得できる 5. バイタルサイン測定を根拠に基づき正確に測定できる 6. 系統別アセスメントに必要な知識が習得できる					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
	1	2	1.ヘルスアセスメントとは（ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの関係性） 2.健康歴聴取 3.フィジカルアセスメントに必要な技術	講義	専任教員	
	2	2	1.一般状態の観察 2.バイタルサインとは 3.体温とは	講義 演習		
	3	2	1.呼吸とは 2.呼吸器系のフィジカルアセスメント 1) 正常な呼吸 2) 呼吸の観察 3) 呼吸の異常 4) フィジカルアセスメントの実際	講義		
	4	2	1.呼吸器系のフィジカルアセスメント 2.呼吸音をきいてみよう	講義		
	5	2	体温測定 呼吸の観察	演習		
	6	2	1.循環器とは 2.循環器系のフィジカルアセスメント 1) 脈拍 2) 血圧 3) フィジカルアセスメントの実際	講義		
	7	2	1.バイタルサイン援助計画 2.血圧計の機器の点検 3.バイタルサイン測定	演習		
	8	2	バイタルサイン測定（血圧、脈拍）	演習		
	9	2	バイタルサイン測定 （体温、脈拍、呼吸、血圧）	演習		
	10	2	バイタルサイン測定	演習		
	11	2	バイタルサイン測定（体温、脈拍、呼吸、血圧）試験	実技試験		

	12	2	1.腹部の基礎知識 2.腹部のフィジカルアセスメント 3.筋・骨格系の基礎知識 4.実際に身体を動かしてみよう 5.筋・骨格系のフィジカルアセスメント	講義	
	13	2	1.神経系の基礎知識 2.意識に関する基礎知識 3.神経系のフィジカルアセスメント ※課題：脳梗塞についての学習	講義	
	14	2	事例をもとにフィジカルアセスメントしてみよう	講義 グループ ワーク	
	15	2	筋・骨格・神経系の観察	演習	
			終講試験		
評価方法	筆記試験 100 点・バイタルサイン測定実技試験				
評価基準	筆記試験 60 点以上とともに実技試験が合格基準に達していること				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 医学書院 山内豊明 フィジカルアセスメントワークブック 医学書院 佐藤達夫監 新版からだの地図帳 講談社				

授業科目	安全・安楽を守るための基本技術		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)	専任教員（臨床実務経験有）					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における安全・安楽の意義と重要性を理解する。 2. 安全・安楽を阻害する因子について理解し、その軽減方法を知る。 3. 医療上起こりやすい事故の要因と対策について理解する。 4. 感染予防の方法を学び、実施することができる。 5. 安楽のために使用される道具・物品の活用について学び、実施することができる。 6. 入院患者の生活環境を理解する。 7. 安全で快適な病床環境の条件を理解する。 8. 基本的なベッドメイキングができる。 9. 臥床患者のリネン交換ができる。 10. 患者にとって安全で快適な病床環境を整えることができる。 11. 援助者の安全・安楽を守る支援の方法について理解する。 12. 基本的活動の基礎知識およびボディメカニクスの原理を理解する。 13. さまざまな体位とその目的を理解する。 					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
安全・安楽	1	2	看護における患者の安全 安全に影響を及ぼす要因 看護上起こりやすい事故 事故防止の方法	講義	専任教員	
	2	2	感染予防	講義		
	3	3	感染予防法の実際	演習		
	4	2	看護における安楽 安楽確保の技術	講義・演習		
環境	5	2	人間と環境 入院患者の生活環境	講義		
	6	2	安全で快適な病床環境の条件と看護	講義		
	7	3	環境整備 ベッドメイキング	演習		
	8	2	ベッドメイキング	演習		
	9	2	臥床患者のリネン交換	演習		
	10	3	臥床患者のリネン交換	演習		
ボディメカニクス	11	2	人間の動き	講義		
	12	2	基本的活動の基礎知識	講義・演習		
	13	2	さまざまな体位と保持	講義・演習		
	14	1	終講試験	試験		
評価方法	筆記試験 100点（安全・安楽 35点、環境 40点、ボディメカニクス 25点）					
評価基準	60点以上で合格					
テキスト	系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 任和子他編 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術第2版 2017 医学書院					

授業科目	日常生活の援助技術 I		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)	専任教員 (臨床実務経験有)					
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての食事と栄養の意義を理解する。 2. 食事と栄養のニーズを充足するための基礎的知識を理解する。 3. 栄養状態及び食欲・摂食能力のアセスメント方法を理解する。 4. 食事の基本的援助を理解する。 5. 経口摂取困難な場合の援助方法を理解する。 6. 人間にとっての排泄の意義を理解する。 7. 排尿・排便の機序を理解する。 8. 対象に適した排泄援助の方法を選択するための知識を身につける。 9. 排尿・排便援助の方法を理解する。 10. 床上での排泄援助を安全・安楽に実施する。 					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
食事	1	2	食と栄養の意義 摂食・嚥下行動のメカニズム	講義	専任教員	
	2	2	栄養と食事に関するアセスメント 健康障害と食事	講義		
	3	2	食事援助の目的と看護師の役割 食事援助の実際	講義		
	4	2	経口摂取困難な場合の食事援助の方法 病院食の実際	講義		
	5	2	食事介助の実際	演習		
排泄	6	2	排泄の意義 排尿・排便のメカニズム 排泄に影響を及ぼす因子 排泄物の観察の視点	講義		
	7	2	排便障害の種類 便秘のある患者の援助方法	講義		
	8	2	自然排便を促すための援助 グリセリン浣腸の実際	演習		
	9	2	排尿障害の種類 排尿障害のある患者の援助方法	講義		
	10	2	一時的および持続的導尿の実際	演習		
	11	2	排泄行動が制限された患者への排泄の援助方法	講義		
	12	2	床上での排泄援助の実際	演習		
	13	2	床上での排泄援助の実際	演習		
	14	3	総合演習(事例を用いた日常生活の援助)	演習		
	15	1	終講試験	試験		
評価方法	筆記試験 100点 (食事・栄養 40点、排泄 60点)					
評価基準	60点以上で合格					
テキスト	系統別看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 任和子他編：根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院					

授業科目	日常生活の援助技術Ⅱ		単位数	2	時間数	60
担当講師 (実務経験)	専任教員（臨床実務経験有）					
科目目標	1. 健康生活における身体の清潔について理解する。 2. 健康障害時の清潔の意義について理解する。 3. 清潔ケアの方法について、専門的な知識を習得する。 4. 清潔の援助の必要性を理解し、基本的な清潔の援助技術を習得する。 5. 衣生活の意義を理解する。 6. 健康障害に応じた衣生活について理解する。 7. 病衣交換の必要性を理解し、基本的な衣服交換の方法を身につける。 8. 人間の生活行動を理解する 9. 生活行動における必要な援助を理解する 10. 体位変換・体位の保持・移動の基本的技術を習得する					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
清潔・衣生活	1	2	人間にとっての衣服の意義 援助に必要な基礎知識 健康障害を負った人の衣生活の看護	講義	専任教員	
	2	2	和式寝衣交換のポイント 洋式寝衣交換のポイント	演習		
	3	2	清潔とは 清潔行動・清潔習慣 人間にとっての清潔の意義と看護 健康障害時の清潔の意義	講義		
	4	2	口腔ケア 陰部ケア 部分浴 モーニングケアの援助計画	講義		
	5	2	口腔ケア 整髪 顔面清拭	演習		
	6	2	モーニングケアの振り返り	講義		
	7	2	洗髪の目的・方法	演習		
	8	2	ケリーパッドを用いた洗髪方法①	演習		
	9	2	ケリーパッドを用いた洗髪方法②	演習		
	10	2	ケリーパッドを用いた洗髪方法③	演習		
	11	1	洗髪技術試験	実技試験		
	12	2	全身清拭の目的・方法 温熱刺激による身体への影響 石鹼による清潔の効果と石鹼分の除去 効果的な清拭の援助技術 マッサージ効果、血液循環の促進 実施中の観察とコミュニケーション	講義		
	13	2	タオルのもち方 湯の温度の調整 身体の拭き方	演習		
	14	2	臥床患者の全身清拭の方法①	演習		

	15	2	臥床患者の全身清拭の方法②	演習	
	16	2	臥床患者の全身清拭の方法③	演習	
	17	1	清拭技術試験	実技試験	
	18	2	足浴演習	演習	
	19	2	まとめ	講義	
	20	1	終講試験（清潔）	試験	
活動・運動	21	2	人間の活動 臥床による人体への影響	講義	
	22	2	活動の援助	講義・演習	
	23	4	体位変換と体位保持	演習	
	24	4	移動・移送 歩行の援助	演習	
休息・睡眠	25	2	睡眠の基礎知識 （メカニズム・種類・身体生理機能の変化）	講義	
	26	2	睡眠障害の種類とその要因 睡眠に関するアセスメント	講義	
	27	2	睡眠・休息の援助の実際 （援助方法・薬物療法の援助）	講義	
	28	1	終講試験（運動・活動、休息・睡眠）	試験	
総合演習	29	2	事例を用いた日常生活の援助	演習	
	30	2	事例を用いた日常生活の援助	演習	
評価方法	筆記試験：A 清潔 100 点、B 活動運動 60 点、休息睡眠 40 点 A・B 各 100 点満点で試験を実施し、A と B の平均点が成績となる。 実技試験：洗髪 全身清拭				
評価基準	筆記試験 60 点以上 かつ 実技試験が合格基準を達していること				
テキスト	系統別看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 任和子他編：根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院				

授業科目	コミュニケーション技術		単位数	1	時間数	15
担当講師 (実務経験)	専任教員（臨床実務経験有）					
科目目標	1. 看護におけるコミュニケーションの意義を理解し、人間関係を成立させるためのコミュニケーション技術を修得する。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
	1	2	ガイダンス コミュニケーションの基礎知識 コミュニケーションとは 人間のコミュニケーションの特徴	講義	専任教員	
	2	2	関係構築のためのコミュニケーション 接近的行動と非接近的行動 評価の11のポイント	講義		
	3	2	関係構築のためのコミュニケーション 聴くことの利点・欠点 話の聞き方、質問・説明の仕方	講義		
	4	2	人間対人間の関係を確立するためのコミュニケーション 看護にとってのコミュニケーションとは 病人との相互作用	講義		
	5	2	人間対人間の関係を確立するためのコミュニケーション 病人を知る（人を知ること） 病人の看護上のニーズを確かめること	講義		
	6	2	人間対人間の関係を確立するためのコミュニケーション コミュニケーション技法	講義		
	7	2	人間対人間の関係を確立するためのコミュニケーション コミュニケーションの崩壊 まとめ	講義		
	8	1	終講試験	試験		
評価方法	筆記試験 90 点、平常点 10 点（出席点の構成要素：遅刻、欠課回数、講義態度）					
評価基準	60 点以上で合格					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 医学書院 トラベルビー著 人間対人間の看護 医学書院					

授業科目	診療に伴う援助技術 I		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)	専任教員 (臨床実務経験有)					
科目目標	1. 検査の目的と検査を受ける対象者の看護の役割が理解できる。 2. 検体採取の方法と検査時の看護の方法について理解できる。 3. 診察、治療、処置に伴う看護師の役割が理解できる。 4. 輸血療法に伴う看護が理解できる。 5. 基本的な創処置の方法が理解できる。 6. 酸素投与時・吸引時の看護が理解できる。 7. 採血の基本技術が習得できる。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
	1	2	臨床検査とは 検査における看護師の役割	講義	専任教員	
	2	2	各種検体検査の目的 検体採取時の注意事項	講義		
	3	2	生体検査の種類と看護	講義		
	4	2	診察に伴う看護師の役割 輸血時の看護	講義		
	5	2	創傷の種類と治癒過程 創部の観察とドレッシング法 ドレッシング材の種類と特徴	講義		
	6	2	無菌操作の基礎知識 滅菌物の取り扱いの基本	講義		
	7	2	無菌操作の実際 (鑷子の取り扱い、創傷処置)	演習		
	8	2	包帯法の種類と固定法 包帯法の原則	講義・演習		
	9	4	酸素吸入の目的・適応・供給方法 吸引の目的・方法	講義・演習		
	10	2	静脈血採血による主な血液検査項目 血液データの読み方	講義		
	11	2	静脈血採血時に起こりやすい合併症と予防策	講義		
	12	2	注射器による静脈血採血の実際①	演習		
	13	3	注射器による静脈血採血の実際②	演習		
	14	1	終講試験	試験		
評価方法	筆記試験 70 点 レポート点 30 点					
評価基準	60 点以上で合格					
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 任和子他編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院					

授業科目	診療に伴う援助技術Ⅱ		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)	専任教員（臨床実務経験有）					
科目目標	1. 与薬の目的と与薬における看護師の役割を理解する。 2. 与薬に伴うリスクを理解する。 3. 与薬の種類と方法、留意点を理解する。 4. 与薬を受ける患者の苦痛を理解する。 5. 筋肉注射、点滴静脈内注射の基本的技術を習得する。 6. 輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱いを理解する。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
	1	2	与薬の基礎知識 安全な与薬のための原則	講義	専任教員	
	2	2	与薬の種類と援助方法	講義		
	3	2	注射法の基礎知識	講義		
	4	2	注射剤の準備①	講義		
	5	2	注射剤の準備②	演習		
	6	2	筋肉内注射の方法①	講義		
	7	2	筋肉内注射の方法②	演習		
	8	4	事例を用いた筋肉内注射の実施	演習		
	9	2	点滴静脈内注射の方法①	講義		
	10	2	点滴静脈内注射の方法② (プライミング 注射部位の選択)	演習		
	11	2	点滴静脈内注射の方法③ (翼状針の刺入と固定、輸液管理と抜針)	演習		
	12	2	事例を用いた点滴静脈内注射の実施	演習		
	13	1	事例を用いた点滴静脈内注射の実施 試験	実技試験		
	14	2	点滴静脈内注射の管理	講義		
	15	1	終講試験	試験		
評価方法	筆記試験 100点 点滴静脈内注射実技試験					
評価基準	筆記試験 60点以上 かつ 実技試験合格をもって単位認定する。					
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 任和子他編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院					

授業科目	健康教育技法		単位数	1	時間数	15
担当講師 (実務経験)	非常勤講師					
科目目標	1. ヘルスプロモーションについて理解できる。 2. 健康教育の定義・目的・健康行動理論について理解できる。 3. 健康教育における看護師の役割と目標について理解できる。 4. 健康教育の実際と方法についてわかる。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
	1	2	健康って何だろう？ 健康教育の目的とは？ ・健康の定義、目的 ・ヘルスプロモーションとは ・国の施策 ・健康教育の実際 ・看護における学習支援 ・学習支援の方法	講義 グループワーク	非常勤講師	
	2	2	健康教育における看護師の役割とは？ ・問題解決技法はなぜ必要か ・看護を必要とする対象者 ・勤労者医療における健康教育 ・看護師の役割とは ・健康教育の方法と媒体について	講義		
	3	2	対象を理解し、有効な方法とは？ ・健康行動理論について ・健康行動理論に沿った健康教育	グループワーク		
	4	2	健康教育の実際を考えてみよう！ ・事例検討	グループワーク		
	5	2	健康教育の実際を行ってみよう！ ・健康教育発表（事例に基づいた健康教育）	グループ発表		
	6	2				
	7	2	健康教育技法まとめ ・意図的なコミュニケーションとは	講義		
	8	1	終講試験	試験		
評価方法	筆記試験 100点					
評価基準	60点以上で合格					
テキスト	大西和子他編：成人看護学 ヘルスプロモーション ニューヴェルヒロカワ					